

2021年4月12日

サカエ薬局グループプレアボイド事例収集分析事業 共有したい事例について

学術ワーキンググループ

集計期間：2020年12月1日～2021年3月31日

※今回は日病薬のプレアボイドの定義に基づき、副作用の発生防止、重篤化回避、薬物治療効果改善に寄与した事例を中心に集計いたしました。

1. 副作用の発生の防止、重篤化防止にかかわる照会事例

※処方が変わらなかった場合も本件にかかわる疑義はこちらに集計

初処方：炙甘草湯の処方があったが、患者の訴える効果と相異あり、疑義紹介したところ芍薬甘草湯のご記載であった。	岡山駅前店
中用量ピルのプラノバルへ変更。過去(1年前)に前兆のある頭痛を経験されており、さらに喫煙習慣もあったためハイリスクと考えて、Drに情報提供するがそのままの調剤でよいとの指示を受ける	岡山駅前店
ドンペリドン内服の処方があったが、手帳確認したところ他科にてナウゼリンの坐剤が処方されていた。本人は「それぞれ別の痛みに使用する」と訴えていたが薬効重複のため照会、中止となった。	岡山駅前店
メイアクトの処方があったが、過去にアモキシシリンにてアレルギー歴あり禁忌薬となっているためセフェムも慎重投与になるため疑義照会したところ、ラスピックへ変更となる。	岡山駅前店
アムロジピン錠5mgとピタバスタチン錠1mgを新規で処方されている患者様の併用薬にレザルタス錠HDがあることがお薬手帳から判明。疑義照会后、アムロジピン錠5mgが処方削除となりました。	児島店
ベサコリン散5%（1g 1日3回 毎食前 7日分）が処方された患者様が喘息をお持ちの方であり処方医に疑義照会しベサコリンは中止になった。	赤坂店
母親に服薬指導中、熱性けいれんの既往歴を確認。 ザジテンDS0.1%が処方されていたため処方医に疑義照会した。 結果、処方変更、中止は不要との回答で変更せず処方。	赤坂店
新規でピタバスタチン錠1mgが処方された患者様のお薬手帳を確認したところアトルバスタチン錠10mgを服用中であることが発覚。ピタバスタチン錠1mgは中止となりました。	児島店
96歳の患者へのタリージェ2.5mg処方。2錠分1の処方であったが、年齢も考慮し1錠分1が適量と判断。疑義照会の結果、1錠分1へ変更指示	山陽店
ベポタスチン錠10mgについて、効果不十分につき2錠分2から4錠分2へ増量指示。過去にも増量した経歴があり、その際眠気が強かったとの記録あり。医師にその旨を情報提供し疑義照会した結果、増量の指示は無しとなる	山陽店

アセトアミノフェン錠 500mg 3錠 頓用の処方あり。添付文書上の標準的な1回量を超えており、医師の診療記録にも疼痛時に1回1錠との記載あり。処方医へ疑義紹介行い、1回1錠へ変更となる。	真壁店
腎機能低下患者への「ロキソニン錠」の処方。さらなる腎機能低下の可能性を考えて、処方医へ代替薬への変更について相談。「ハイペン錠 100mg」へと変更	山陽店
アスベリン散が体重換算量より多く処方されていたため、確認した結果、トランサミン散の入力違いであった	山陽店
アドエア 500 ディスカス：1日2回 1回2吸入で処方指示。添付文書に照らして、用法用量について疑義照会。1日2回1回1吸入へ変更指示	山陽店
妊婦への「フロモックス」処方。胎児の低カルニチン血症の可能性について医師に情報提供。「ファロム」へ変更	山陽店
ブロムヘキシン塩酸塩吸入液の希釈液として、精製水の処方あり。福岡県薬剤師会 HP に、精製水の希釈では調整後の浸透圧が低張となり、長時間の非等張液の吸入はその非生理的な刺激による上下気道の組織や細胞等の障害悪化等により、喘息症状を悪化させる恐れありとの記載。(メーカーへ確認したところ、生理食塩液以外での希釈は検討していないとのことで明確な回答得られず)処方医へ上記情報提供行ったところ、希釈液を生理食塩液へ変更の指示あり。	真壁店
尿酸値が高く通常はフェブリク錠 10mg を服用していたが、処方箋では 20mg に今回から増量。こちらの薬剤を服用してから体にかゆみが出ていると以前から疑いがあった為に増量に関して疑義照会。ユリス錠 0.5mg などの候補も考えられたがユリノーム錠 50mg (1錠夕食後)に変更となる。	児島店
ノルspanテープ 5mg：以前に処方され、嘔吐が酷く中止となっていた。久しぶりに再受診、再度ノルspanテープが処方される。前回薬歴より「ノルspanで嘔吐⇒処方中止」に気づきすぐに処方医へ確認し中止となる。	瀬戸内店
白内障にて眼内レンズを挿入されているにも関わらずエイベリスの処方ありキサランへ変更となった	柳川店
頭部の湿疹出来物で皮膚科受診。ミノマイシンの処方がるが、職業ヒアリングにて長距離トラックの運転手であると判明。ミノマイシン製剤のめまい服用のおそれについて説明協議。ミノマイシンは運転避ける文言記載あり。めまい副作用なく運転回避の無い同効「ビブラマイシン」へ疑義にて変更提案し、薬剤変更となる。	中山下店
ピロリ菌の除菌に対して適応外のロキシスロマイシン錠 150mg が処方される。適応のあるクラリスロマイシン錠 200mg を提案し変更となる	児島店
サインバルタ Cap 20mg 3Cap 28日分 1日1回朝食後 本人が初めての処方だと言われたため用量確認したが、半年前ごろまで 3Cap/日で継続していたそう。用量下げて服用再開しないか確認したが、処方変更なしとのことだった。	勝山店

普段からチラーヂンを飲まれている方に、Hb 低値の為クエン酸第一鉄 Na が追加になった。用法は朝食後でタイミングは同じ。吸収阻害の可能性があるので問い合わせした結果、クエン酸第一鉄 Na は夕食後に変更になった。	西大寺南 店
ゾルピデム初処方にもかかわらず 10mg での処方だったため照会、5 mgへ減量となる。	岡山駅前 店

2. 照会によって薬物治療効果の改善が見込まれた事例

初処方：炙甘草湯の処方があったが、患者の訴える効果と相異あり、疑義紹介したところ芍薬甘草湯のご記載であった。	岡山駅前 店
バナン DS について、体重に比して少ない量での処方であったため、用量について確認。適正量へと変更となった。	山陽店
ワイドシリン細粒 分3 の処方であったが、昼食後は保育園で飲ませてもらえないと家族より訴えあり。処方医へ情報提供した結果、1 回量はそのまま、1 日の服用回数を 2 回に変更するように指示あり	山陽店
皮膚科患者への「グレースビット錠」の処方。グレースビット錠の適応疾患に皮膚科領域は含まれないと考えて、処方医へ適応症について確認。感受性試験の結果、「感受性ありがグレースビットだけだった。適応症はレセプト病名をつけるので、そのまま処方して」と返答あり	山陽店
アレグラ錠 30mg の処方であったが、12 歳を超えていたため、念のため 60mg でなくてよいか疑義照会。結果、アレグラ 60mg へ処方変更となる	山陽店
「ピラノア錠 就寝前」の処方であったが、職業柄「就寝前」が一定でないと聞き取りあり。疑義照会の結果、朝食前服用指示へ変更	山陽店
アドエア 250 ディスカスとアニューティ 200 エリプタが同一の処方箋で処方あり。医師へ処方意図問い合わせると、 β 刺激薬を増やさずステロイドを増量したいと。アドエア 500 ディスカスが β 刺激薬は同量でステロイドのみ倍量となった製剤であること情報提供。 アドエア 500 ディスカスのみへ処方変更となる。	真壁店
ロフラゼブ錠 2 mg 2 錠 1 日 1 回夕食後に処方あり。添付文書上、適宜増減はあるものの、1 日量は 2 mg までの薬剤のため、念のため処方医に疑義照会を行ったところ、ロフラゼブ錠 2 mg 1 錠 1 日 1 回夕食後に減量となり、代わりにロラゼパム錠 0.5 mg 1 錠 1 日 1 回夕食後が追加となった。	幸町店

3. 不要な薬剤を中止し、医療費への効果をきたした事例

患者様からの酸化マグネシウム 330 ヨシダについて残薬の申し出あり。処方されていた数量と同数 3 T3×N 7 日分 (21 錠) と同量であり処方医に疑義照会の上処方削除となった。	赤坂店
外科定期薬でレバミピド 100mg 3T N で処方のある患者さんに、整形よりロキソプロフェン 60mg 3T、レバミピド 100g 3T (7) N 処方重複するため、整形のレバミピドを中止して頂いた	勝山店
残薬調整 ケアマネさんより残薬預かり ビラノア 20 mg 1T 35 日分→15 日分に変更	勝山店
施設の看護師さんより、残薬預かり残薬調整 マグミット 330mg 4T MA 91 日分→62 日分に変更	勝山店
ロキソニンテープ 100mg の処方追加あり。使用部位は腰。服薬指導のやりとりから肩へも共用するとのことで、小さい 50mg 剤型への変更希望。 疑義にて 50mg 剤型へ変更とする。	中山下店
施設看護師の申し出でデノタスチュアブル錠が 2 0 T 残薬 (用法は 1 回 2 錠) があつたため、疑義照会にて処方日数 63 日分から 53 日分に変更した	山南店

以上